



北海道に、宇宙版シリコンバレーをつくる



SPACE COTAN



大樹町

INDEX

01 ABOUT US

大樹町とは | SPACE COTANとは | 北海道スペースポートとは

02 SPACE INDUSTRY

宇宙産業の市場拡大 | 宇宙港の重要性 | 小型人工衛星の需要拡大 | 宇宙活用への期待

03 MARKET OF SPACE PORT

商業宇宙港の価値と国益 | 世界的な宇宙港の需要 | 日本の宇宙港 | 日本の宇宙輸送の現状と課題

04 WHAT IS "HOKKAIDO SPACEPORT" ?

HOSPOの歩み | HOSPOの強み | HOSPOの設備 | 将来イメージ

05 OUR VISION

打上計画 | 宇宙版シリコンバレー構想 | 経済波及効果

06 BUSINESS DEVELOPMENT

ビジネスモデル | 企業版ふるさと納税 | 資金調達状況 | HOSPO SUPPORTERS

07 ACHIEVEMENT

これまでの成果

01 ABOUT US

大樹町とは | SPACE COTANとは | 北海道スペースポートとは



大樹町 とは



北海道 大樹町

コンセプト：宇宙のまちづくり（1985年～）

人口：5,273人（2024年3月末時点）

総面積：815.68km²（東京23区の面積が627.6km²）

基幹産業：農業、漁業

特産品：生乳、チーズ、大樹和牛、小麦、じゃがいも、
てん菜、秋鮭、ししゃも、毛がに、しじみ、
つづ、ほっき



酪農・農業



漁業



豊かな大自然



航空宇宙産業

SPACE COTAN とは

宇宙港「北海道スペースポート」の運営や事業推進
ロケットやスペースプレーンの打上げ支援業務等を行う事業者



SPACE COTAN

SPACE COTAN 株式会社

本社 : 北海道 広尾郡 大樹町 西本通 98

事業内容 : 北海道スペースポートの事業推進業務全般
管理運営、整備資金調達支援、射場の設計、国の認定取得、
国内外の顧客開拓、PR活動 等

宇宙産業促進に向けた自主事業 等

代表取締役社長兼CEO : 小田切 義憲



北海道スペースポートとは

SPACE COTAN が運営する、民間に開かれた商業宇宙港

垂直型 / 水平型 / 気球等の多様な機体の打上げ・離着陸に対応できる、マルチユースかつ国内外の誰もが利用できる商業宇宙港
アジアのハブ宇宙港として世界の宇宙ビジネスの発展を支えるインフラになることを目指す



02 SPACE INDUSTRY

宇宙産業の市場拡大 | 宇宙港の重要性 | 小型人工衛星の需要拡大 | 宇宙活用への期待



宇宙産業とは

宇宙データ・技術利活用

人工衛星からのデータや各種宇宙技術を利用したビジネス、その他関連事業

- ・衛星データ（画像/位置情報等）の販売
- ・衛星データ処理・解析により得られる情報・ソリューションの提供
- ・衛星通信サービス



宇宙旅行（エンタメ）・滞在・移住

宇宙に行く、または滞在（移住含む）を目的としたビジネス、その他関連事業

- ・宇宙旅行（エンタメ）の企画・運営
- ・宇宙ホテルの設計・開発・運営
- ・関連する衣食住事業



探査・資源開発

地球周辺・周回軌道以外の宇宙空間で行われるビジネス、その他関連事業

- ・宇宙探査機・探査車の開発・製造
- ・月や火星における基地やインフラの企画・設計・運営



宇宙輸送

宇宙空間に人や物を輸送するビジネス、その他関連事業

- ・大型/小型ロケット、宇宙船の開発・製造
- ・人工衛星や有人の打上げサービス



人工衛星サービス

宇宙に人工衛星のインフラを構築・運用するビジネス、その他関連事業

- ・静止衛星の開発・製造
- ・低中軌道衛星コンステレーションの開発・製造、配備
- ・地上の設備や端末



軌道上サービス

地球周辺・周回軌道等宇宙空間の人工物に対するビジネス、その他関連事業

- ・衛星の寿命延長
- ・宇宙空間での研究開発や製造
- ・デブリ除去



スペースポート（地上インフラ）

ロケット発射場やスペースプレーン用滑走路の開発・整備、輸送機離着陸に関する各種オペレーション支援、その他関連事業

宇宙産業のビジネスチャンス

全地球 インターネット

砂漠や太平洋の真ん中でも、インターネット通信が可能に

世界で30億人がインターネットでの通信ができないと言われていますが、小型人工衛星の衛星コンステレーションがこの問題を解消します。

地球上の誰もが、どこでもインターネットを使える世界へ。



高速2地点間輸送 (P2P)

地球上のどこでも1時間で行ける!

従来15時間かかるニューヨーク⇔上海を約40分に短縮。ロケット技術を生かした高速の宇宙旅客機で、地球上の主要都市を1時間以内で移動できるようになります。



衛星データ × IoT

宇宙開発とIoT! 超ビッグデータの時代へ!

人工衛星が地球を観測したデータとIoTやAIを組み合わせ、産業にイノベーションを起こします。農業では衛星で作物の生育状況を調べて収穫を予測したり、自動運転のトラクターで農作業を行います。



民間宇宙旅行

旅先は国内? 海外? それとも宇宙?

数分間の無重力を体感できる小宇宙旅行から国際宇宙ステーションに数日間滞在できるプラン、月の周回軌道を回るツアーまで。旅先の選択肢がぐっと広がります。



宇宙ホテル

宇宙で暮らそう!

月や火星で暮らすという選択肢は、もう夢物語ではありません。宇宙に数百名が滞在できる「宇宙ホテル」。月面基地建設、火星への移住。宇宙が人類の新たな生活圏になる未来が近づいています。



小型人工衛星の需要拡大

低コスト・短期間で作れる1,200kg以下の小型人工衛星の需要は2010年代から急激に成長

大型・少数から
小型・多数「コンステレーション」の時代へ

小型人工衛星の打上げ実績
(1,200kg以下)



出典：BryceTech “Smallsats by the Numbers 2024”

小型衛星の利用方法

通信

全地球インターネット・衛星電話回線
政府（安全保障）
民間（SpaceX・Amazon・OneWeb）



情報収集

狭帯域通信・データ収集
民間（Spire・Swarm Technologies）



リモートセンシング

カメラやレーダーで地球を観測
政府（安全保障・科学）
民間（Axelspace・planet・Black sky・Orbital Insight）



テクノロジー

新技術の実証実験
民間・政府宇宙機関・大学



科学

宇宙物理学・天文学・惑星科学・深宇宙探査
政府宇宙機関・研究機関・大学



安全保障

ミサイル早期警戒・宇宙天気予想・
レーダー位置把握・地球近傍物体監視
政府（内閣官房・防衛省）



軌道上サービス

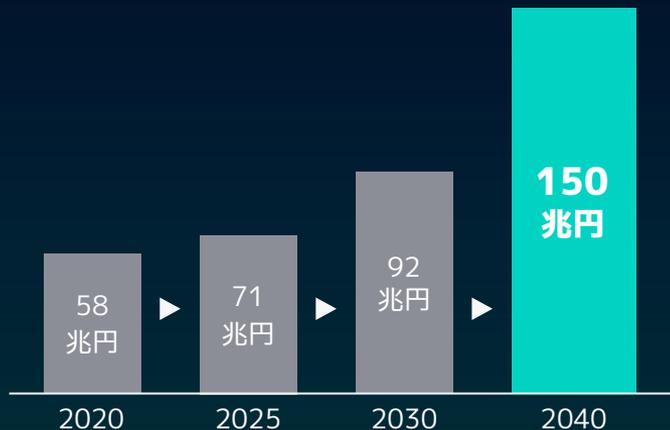
軌道上製造・ラストマイル
政府宇宙機関・民間（Northrop
Grumman・Momentum・Astroscale）



小型衛星に適さないアプリケーション
放送（BS/CS）・測位（GPS）・気象（ひまわり）

宇宙産業の拡大に伴い、宇宙港がより重要に

世界の宇宙産業の市場規模



出典：Morgan Stanley "Space Investing in the Final Frontier" (2020)

新たな産業

宇宙ステーション・月面・火星・高速二地点間輸送等の目的地や利用シーンに合わせた輸送モードの多様化や既存輸送モードの高度化により、産業拡大が見込まれる

宇宙輸送のニーズが高まるにつれ、射場（宇宙港）の重要性が高まる

03

MARKET OF SPACE PORT

商業宇宙港の価値と国益 | 世界的な宇宙港の需要 | 日本の宇宙港 | 日本の宇宙輸送の現状と課題



商業宇宙港が整備されることの価値・国益

宇宙港は、宇宙輸送能力の自律性や安全保障、経済安全保障の確保のために不可欠な社会基盤インフラ。国際競争力のある宇宙港を整備することで関連産業が集積し、宇宙産業の発展・経済成長・イノベーション創出が期待できる。政府の成長戦略である「アジアにおける宇宙ビジネスの中核拠点化」に繋がる。

自律的な宇宙輸送能力の確保 総合的基盤の強化

他国に依存しない自律的な宇宙輸送能力を保持することは宇宙政策の基本。日本の宇宙活動を支える政府や民間企業等のロケットやスペースプレーンの高頻度な打上げを可能とする宇宙港（地上設備）は不可欠。

国家安全保障・防衛力の強化

ロシアによるウクライナ侵略により、日本を取り巻く安全保障環境は不確実性を増す。衛星コンステレーションによる情報収集、通信、測位等の能力向上が計画される。宇宙の安定的利用と自由なアクセス維持に宇宙港は不可欠。

宇宙港を核とした産業集積による 宇宙産業発展と経済成長、地方創生

宇宙港開発は関連産業の集積や企業誘致に繋がり、地方創生に寄与する。第一次・二次・三次産業にイノベーションをもたらし競争力向上に貢献する。雇用創出のほか、エンジニアや研究者を中心とした居住人口・関係人口増加も期待できる。

経済安全保障の確保

日本の経済社会における宇宙システムの役割は増大し、広範な分野で宇宙利用による産業活性化が進む。宇宙利用拡大と基盤強化が好循環する「自立した宇宙利用大国」を目指す。

イノベーション創出・ 先端技術の獲得・基盤強化

宇宙港周辺に関連産業が集積することで研究開発の基盤となる。また、再利用等新たな技術を試せるフィールドも必要となる。研究者等の人材育成の効果も期待できる。

高速2地点間輸送、有人宇宙飛行の ハブ宇宙港としての地位確立

高速2地点間輸送（P2P）や有人宇宙旅行等の新たな宇宙輸送ビジネスに関する法制度、宇宙港設備等の環境が整えば、アジアのハブ宇宙港としての地位確立が期待できる。

世界的な宇宙港の需要

世界90箇所以上に宇宙港が建設・運用される、宇宙港開発ラッシュ期を迎えている。
既存の射場に加え米国・欧州・アジア等世界各地で新たな宇宙港の建設～運用が進行している。

世界の宇宙港の所在地

運用中・開発中・計画段階を含む



出典：デロイト トーマツ コンサルティング合同会社(一部加筆)

日本の宇宙港

HOSPOは、誰もが使用でき多様な機体の打上げが可能な国内唯一の商業宇宙港として稼働している
国内の安全保障や宇宙産業への貢献はもちろん、アジアの宇宙ビジネスの中核拠点として世界に開かれた宇宙港

スペースポート大分（国東市）

共用



- ・民間に開かれた水平型宇宙港
- ・大分空港の既存滑走路3000mを活用
- ・米国との連携や法整備が課題
- ・運営主体を検討中



©Sierra Nevada Corporation

北海道スペースポート（大樹町）

共用



- ・民間向け商業宇宙港、2021年4月本格化
- ・水平型・垂直型・気球実験等を受け入れる多様性
- ・国内唯一の民間ロケットに対応した共用垂直射場
- ・2021年に民間ロケットが2機宇宙到達
- ・2021年4月 運営会社SPACE COTAN設立



©SPACE WALKER, INC.



沖縄県下地島（宮古島市）

共用



- ・民間企業（PDエアロスペース）が下地島空港の既存の滑走路（3000m）を活用

種子島 & 内之浦

専用



- ・政府の専用射場（HII-A, HII-B, H3, イブシロン）

スペースポート紀伊（串本町）

専用



- ・民間企業（スペースワン）の専用射場
- ・2024年3月カイロス初号機を打上げ

日本の宇宙輸送の現状と課題

日本での打上機会が少ないため、商業衛星の殆どは海外で上げられており、国内資本が海外へ流出している。

海外打上げはオペレーションや輸出入等の負担が大きく、政府ミッションに対応できない。

大型ロケットへの相乗りはコストは低減されるものの、打上げ機会が少なく軌道が選べない等の課題もある。基幹ロケットに加え、民間ロケットを活用し衛星事業者のニーズ（時期や軌道を選べる）に応える必要がある。

日本の人工衛星の打ち上げ場所

国内：海外



宇宙ベンチャー



民間企業



大学



JAXAとの
相乗りが多い

2010年～2029年
打上げ予定を含む
政府需要を除く

世界のロケット打上げ数

	2019	2020	2021	2022	2023
米国	27	43	51	87	116
中国	34	39	56	61	63
ロシア	25	16	25	22	19
EU	6	5	6	5	3
日本	2	4	3	1	3
その他	9	5	5	6	15

出典：GUNTERS SPACE PAGE “Chronology of Space Launches”

20年間での損失予想



04

WHAT IS "HOKKAIDO SPACEPORT" ?

HOSPOの歩み | HOSPOの強み | HOSPOの設備 | 将来イメージ



北海道スペースポートの歩み

はじまりは1985年から

十勝毎日新聞 昭和60年9月16日(月曜日) 大正8年創刊 (日刊)

大樹に宇宙基地を

道、北東公庫が誘致構想

苦東と並び候補に 地域開発に大きな可能性

【大樹市】道庁と北東公庫が、大樹市に宇宙基地を誘致する構想を打ち出した。道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。

道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。

宇宙開発事業団の事業所

大樹市は、道庁と北東公庫が、大樹市に宇宙基地を誘致する構想を打ち出した。道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。

出典：大樹航空宇宙基地構想 (<https://kachimai.jp/taiki-spaceport/index.php>)

航空宇宙の聖地としての実績

大樹の構想新局面に

宇宙基地 JAXA箱

【大樹市】大樹市に宇宙基地を誘致する構想を打ち出した。道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。

小型無人機

大樹で飛行試験開始

観測・監視用の単発機開発へ JAXA

【大樹市】大樹市に宇宙基地を誘致する構想を打ち出した。道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。

飛行船初フライト成功

大樹

【大樹市】大樹市に宇宙基地を誘致する構想を打ち出した。道庁は、大樹市を宇宙基地の候補地として、北東公庫は、大樹市を宇宙基地の誘致地として、それぞれ検討している。

北海道スペースポートの強み

1

東と南が
海に開けている

高緯度 かつ
軌道傾斜角が広い



2

広大な敷地による
拡張性の高さ



3

空路と海路が
混み合っておらず
打上げウィンドウが
確保しやすい



4

圧倒的な
晴天率の高さ
“とがち晴れ”



5

アクセスの良さと
快適な 周辺環境



6

国内 3 つ目の射場
約40年にわたる
宇宙のまちづくりの
実績



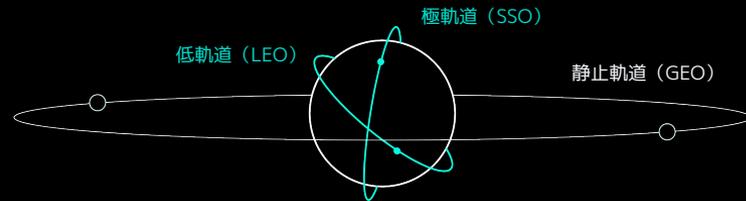
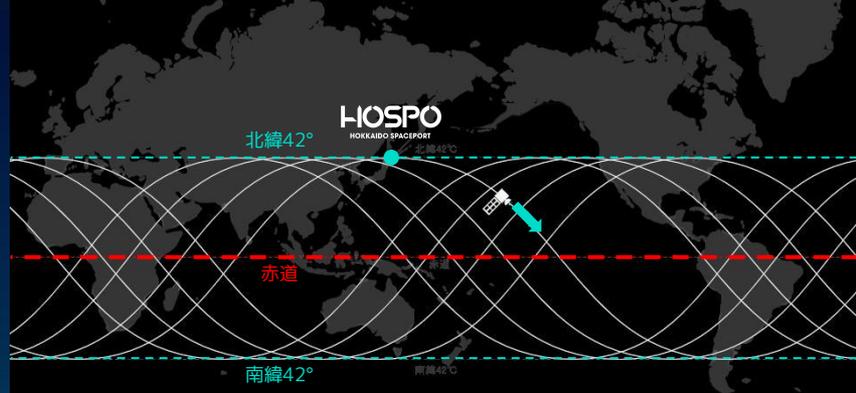
1

東と南が海で開けている
高緯度 かつ 軌道傾斜角が広い

ロケットの打上げ方向が海で開かれている

一箇所から東向きにも南向きにも打ち上げられる

緯度が高いため、広範囲を観測できる角度で打上げ可能



2

広大な敷地があり拡張性が高い

人口密集地から離れており
ロケット打上げの保安距離を確保しやすい

射場の拡張が可能 (LC-1,2,3,4...等)
P2Pに利用する3,000m滑走路の整備が可能

水資源も豊富で、電力インフラも整備済み



3

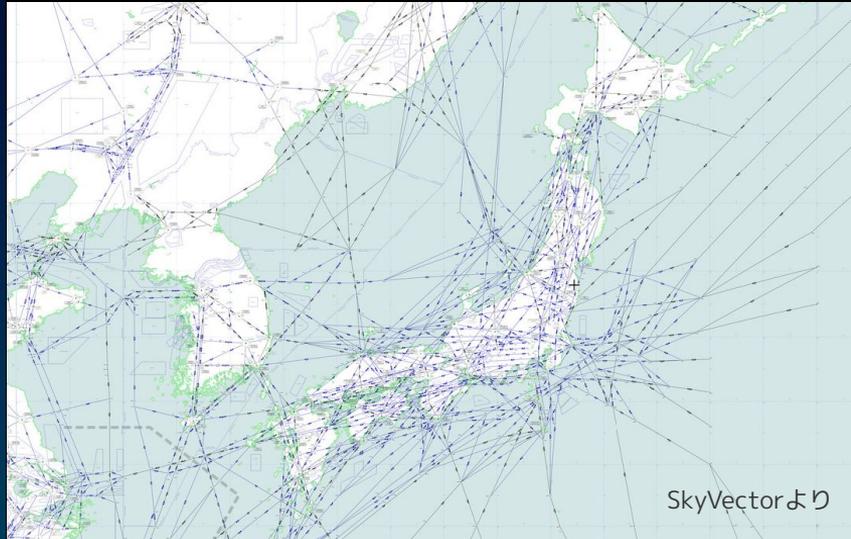
空路と海路が混み合っておらず
打上げウィンドウが確保しやすい

空路（上図）

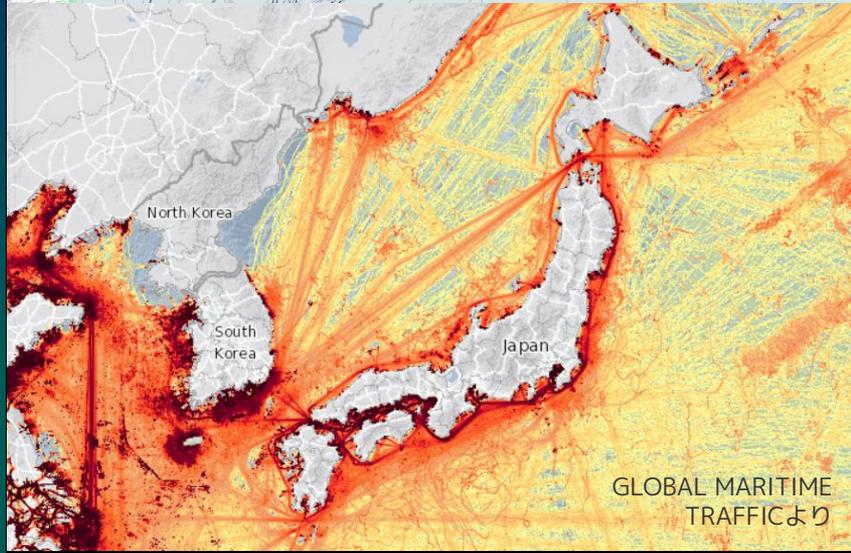
周辺の航空路は帯広空港・釧路空港のみで
航空路が比較的混み合わない

海路（下図）

日本の最北に位置しており
海路が比較的混み合わない



SkyVectorより



GLOBAL MARITIME TRAFFICより

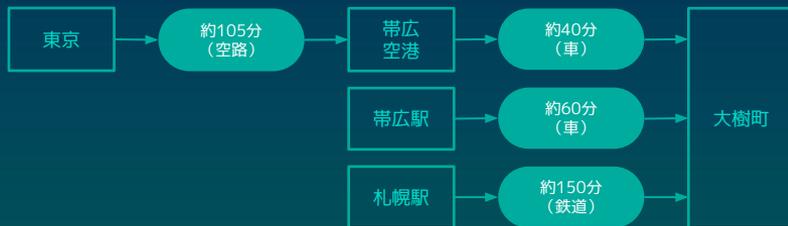
4

圧倒的な晴天率の高さ

“とがち晴れ”と名高い晴天率の高さにより
ロケット打ち上げ可能な気象条件となりやすい

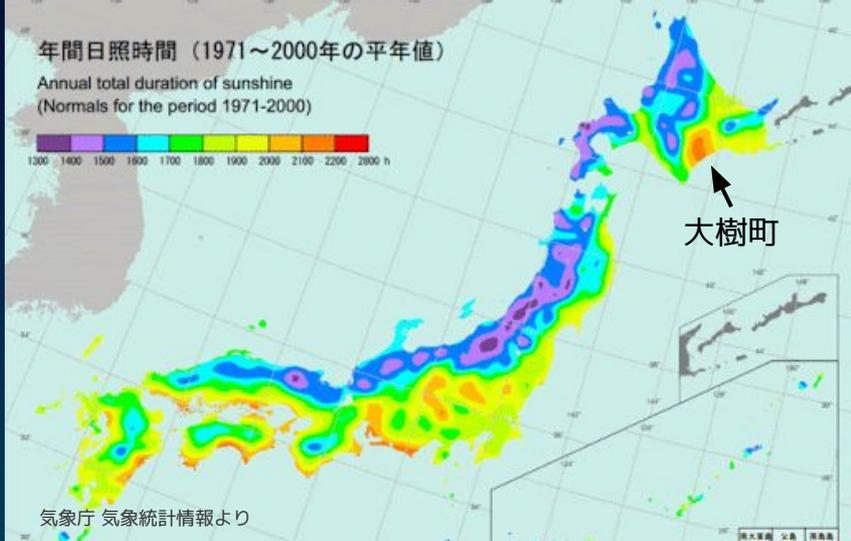
5

アクセスの良さと快適な周辺環境



都市部とのアクセスが良く滞在生活が快適

ロケットや人工衛星の輸送にも有利



6

国内3つ目のロケット射場としての実績

2017年

民間初の液体燃料サブオービタルロケットを打上げ
種子島・内之浦に次ぐ国内つ目のロケット射場に

2019年

民間初の液体燃料サブオービタルロケットが宇宙に到達

2021年7月 3日 MOMO7号機

2021年7月31日 MOMO6号機

連続で打上げに成功



提供元: インターステラテクノロジズ



航空宇宙ビジネスの聖地

北海道スペースポートの一部は1995年から稼働を開始

JAXAをはじめとする多くの企業や大学等による多種多様な航空宇宙に関する研究・実験が行われてきた
近年はロケットの他にもドローン/無人飛行機/空飛ぶクルマ等の次世代モビリティの実験も行われている

現在、進行中

JAXA大樹航空宇宙実験場

- 飛行管制棟
- 飛行実験棟
- 大気球司令棟
- 格納庫
- 気象観測装置
- ハンドリングエリア
- 大気球スライダ-放球装置

Launch Complex - 0

- インターステラテクノ/ロジス社の観測ロケット MOMO打上げ、各種実験
- ロケット射点
- ロケットエンジン燃焼試験棟
- ロケット組立棟

- ### 滑走路
- 全長 1,000 m
 - ヘリポート

宇宙交流センターSORA
大樹町での実験に使われた
ロケット等の展示スペース

ACHIEVEMENT もう動き出しています

HOSPOの前身は1995年から稼働を開始。これまでJAXAをはじめ多くの企業や大学等による多様な航空宇宙に関する研究・実験が数多く行われ、その利用価値を高めてからHOSPOは2021年4月に本格稼働しました。

実験実施企業等(一部)



実験実績(一部)



JAXA(宇宙航空研究開発機構)

2008年に大樹町と連携協力協定を締結し、大樹航空宇宙実験場を整備。大気球実験や「はやぶさ2」のレーザ高度計の実験等が行われています。



インターステラテクノ/ロジス株式会社

大樹町に拠点を置き、観測ロケットと超小型衛星打上げロケットを開発・製造。2020年には同町と包括連携協定を締結し、国内初の宇宙測速を達成しました。



国立大学法人 室蘭工業大学

インターステラテクノ/ロジス社との共同研究、同町での航空宇宙実験を実施。2020年には同町と包括連携協定を締結、サテライトオフィスを開設しました。



ソフトバンク株式会社

雷山や山岳地域などでの早期の選定を機軸を目的に、独自に改良したドローン無着中継システムを利用した離外実証実験を実施しています。



川崎重工株式会社

ヘリコプターの高速化を目指し、無人コンパウンド・ヘリコプター「K-RACER」を使用した飛行試験を実施、技術実証を行っています。



国立大学法人 電気通信大学

情報理工学部田中研究室では、災害発生時の無人航空として自律飛行ロボット「スマート飛行体」を研究開発。2011年から同町で実験。

北海道スペースポートの設備

Launch Complex - 0



Launch Complex - 1

2025年度 完成予定



Launch Complex - 2

検討中



JAXA大樹航空実験場



1,300m滑走路



P2P対応 3,000m滑走路

検討中



北海道スペースポートの開発計画



将来イメージ

工場誘致

国内外のロケット会社/衛星会社の工場を誘致。サプライヤーや大学、研究機関・サテライトオフィスが集積し、工業が活性化。

地域活性化

国内外の航空宇宙事業者が集積し、雇用が増加。交流人口も増え、観光サービスや不動産等の商工業も活発に。地域活性化に貢献。

ターミナル

海外のロケットが就航し、高速2地点間輸送（P2P）が本格化することから、大規模なターミナルが建設される。

垂直型射場

垂直型射場を広大な沿岸部に拡張。（LC-1,2,3,4...）
固体ロケットの誘致等、海外事業者の専用射場ニーズにも対応する。

滑走路

スペースプレーン等の水平型打上げに対応するため3,000m滑走路を整備。

打上げ観覧場

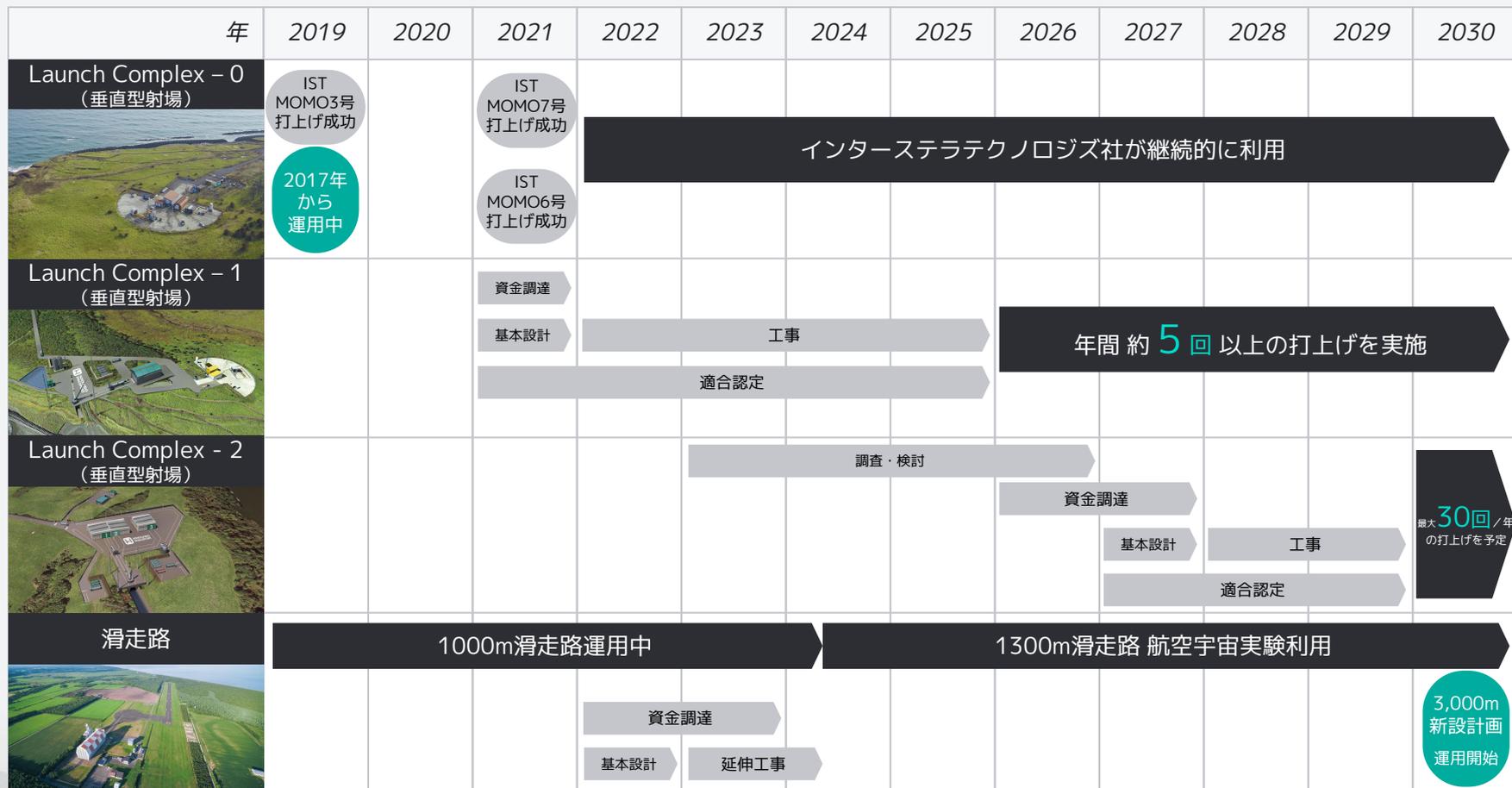
打上げ観覧場を整備し、ロケットを観光資源化。No Launch Dayは教育旅行や研修旅行を受入れ。

05

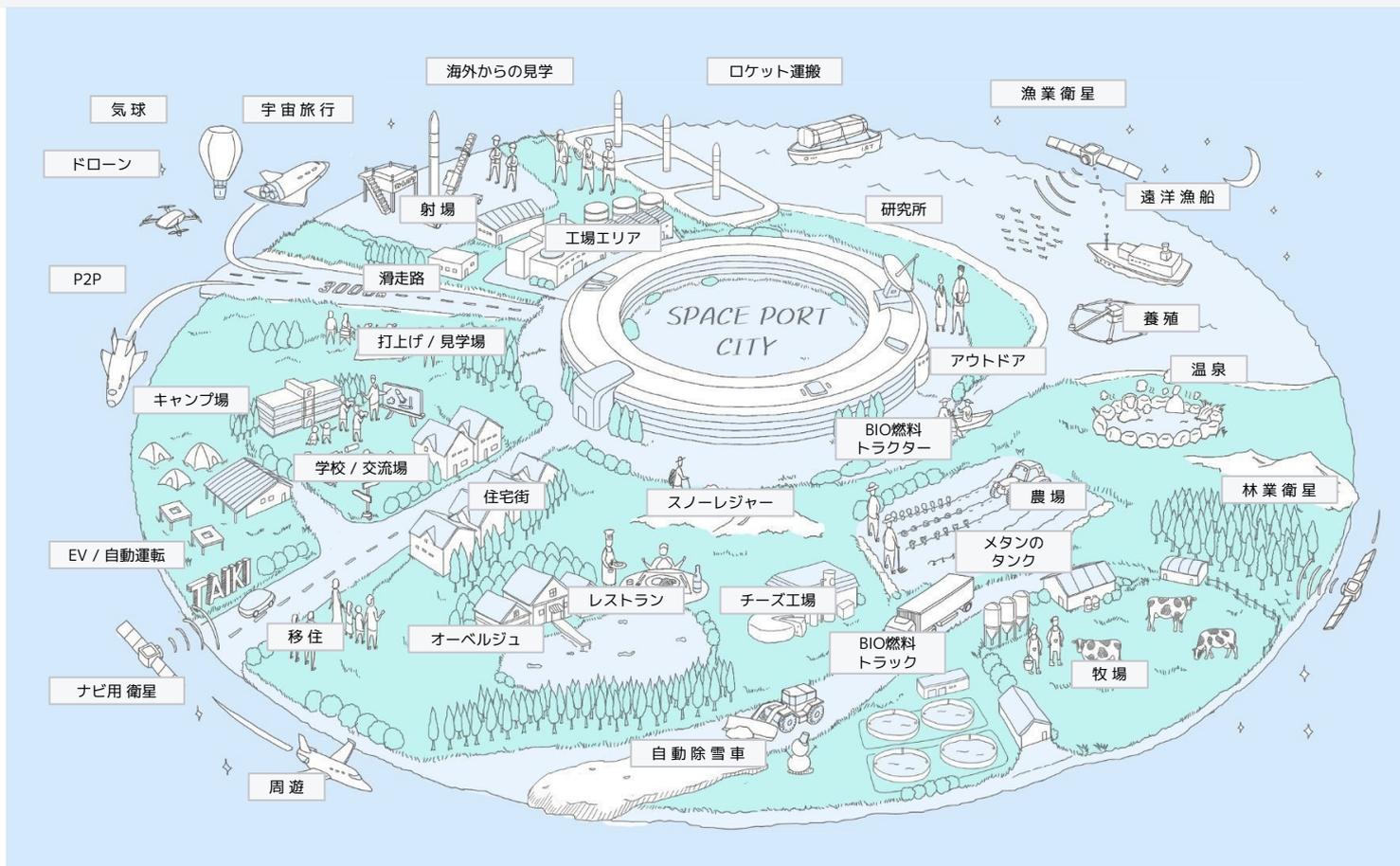
OUR VISION

打上計画 | 宇宙版シリコンバレー構想 | 経済波及効果

北海道スペースポートでの打上実績・計画



宇宙版シリコンバレーの全体像



北海道内への経済波及効果

北海道スペースポート整備による
北海道内への波及効果

経済効果

267億 円 / 年

雇用創出

約 2,300 人 / 年

観光客の増加

約 17万 人 / 年

北海道経済連合会・日本政策投資銀行 算出

オール北海道

SPACE COTANを中心として、北海道・北海道経済連合会等の
多くの応援団とともに北海道スペースポートプロジェクトを推進



黒川 豊
大樹町長



鈴木 直道
北海道知事



藤井 裕
北海道経済連合会 会長



米沢 則寿
とちか航空宇宙産業基地
誘致期成会 会長・帯広市長



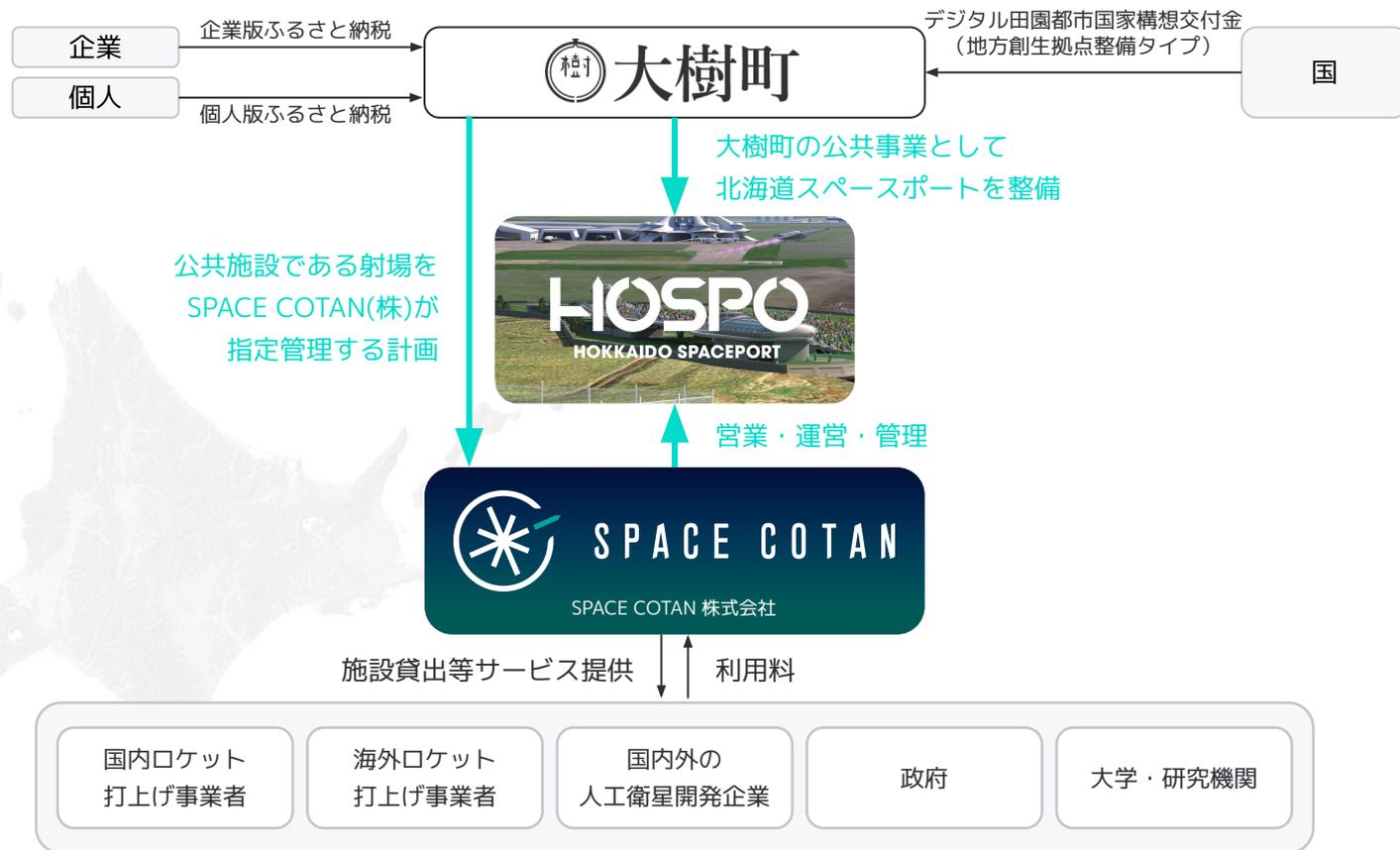
上杉 邦憲
北海道宇宙科学技術創成
センター(HASTIC) 理事長

06

BUSINESS DEVELOPMENT

ビジネスモデル | 企業版ふるさと納税 | 資金調達状況 | HOSPO SUPPORTERS

北海道スペースポートのビジネスモデル

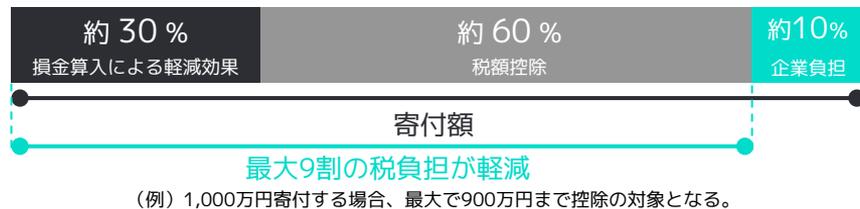


企業版ふるさと納税

企業版ふるさと納税とは

国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対し、企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除する制度
<メリット>

- ・ 明確な目的に対して納税
- ・ 地域振興やSDGsを通じた関係構築や新規事業創出
- ・ 法人税の軽減効果



【問い合わせ・申込書送付先】

〒089-2145

北海道広尾郡大樹町東本通 3 3 番地

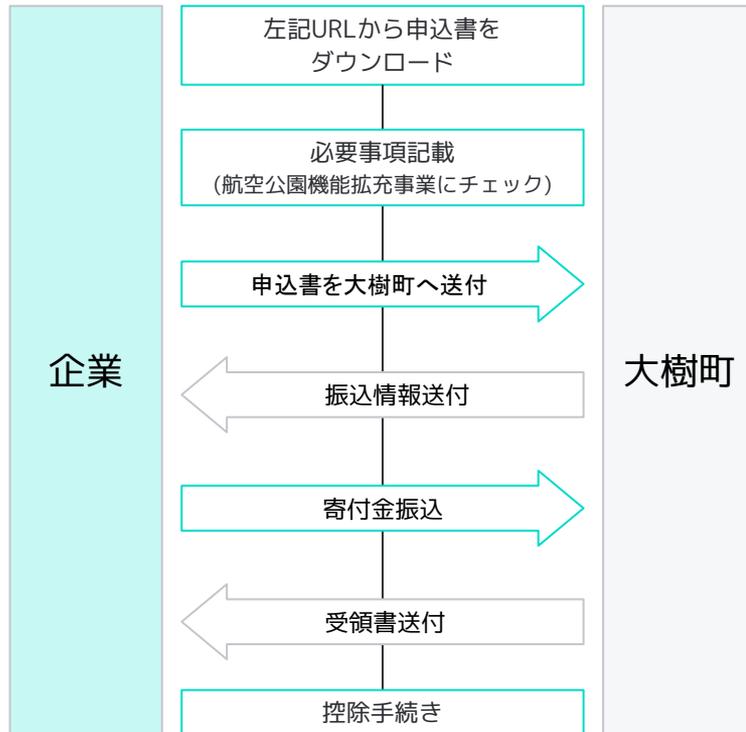
大樹町役場企画商工課航空宇宙推進室 推進係

電話：01558-6-2113 FAX：01558-6-2495

Mail：uchu@town.taiki.hokkaido.jp

URL：<https://furusato-taiki.jp/>

納税手順



資金調達状況

企業版ふるさと納税

240 件 27.7億 円

2020-2023年度合計
支援件数 2020-2023年度合計
支援金額

(射場整備事業：11億6,560万円、宇宙ビジネス推進事業：16億640万円)

地方創生拠点整備交付金

11.6億 円

2022-2024年度合計
交付金額

個人版ふるさと納税

7,600万 円

2020-2023年度合計
支援金額大樹町ふるさと納税サイト：<https://furusato-taiki.jp/>

大臣表彰

2022年度

企業版ふるさと納税の
活用において顕著な功績
を上げたことにより受賞

07

ACHIEVEMENT

これまでの成果

HOSPOから宇宙への挑戦

MOMO 7号機打ち上げ

- ・ 名称:ねじのロケット
- ・ 2021年7月3日打ち上げ
- ・ 3号機以来の2回目
- ・ 当初、2020年夏に打ち上げる予定だったが、エンジン点火器の不具合のため、2回に渡って延期
- ・ その後、MOMOの全面改良を決定。信頼性や運用性を強化した新型機「MOMO v1」を開発
- ・ 7号機の打ち上げはv1仕様の初飛行となった



MOMO 6号機打ち上げ

- ・ 名称:TENGAロケット
- ・ 2021年7月31日打ち上げ
- ・ 国内民間では初となるペイロードの放出と回収
- ・ 6号機の打ち上げ後、超小型衛星用ロケット「ZERO」開発本格着手に伴いMOMOプロジェクトは一旦休止



宇宙版シリコンバレー構想実現に向けた前進

LaunchComplex-1 着工

- ・ 現在稼働しているロケット発射場「Launch Complex-0 (LC-0)」の隣の敷地約26,800㎡に建設され、ロケットの組立棟や燃料等の供給プラント等を備える
- ・ 2025年度完成を目指し、インターステラテクノロジズ等国内外の事業者による人工衛星用ロケットの打上げを予定
- ・ 滑走路の延伸も2024年7月に完了し、サブオービタルスペースプレーンのほか、空飛ぶ車やドローン等の次世代エアモビリティの実験等に使用される

コワーキングスペース開発

- ・ 大樹町に実験にきた宇宙産業の方や地元の方等、誰もが利用できるコワーキングスペースを開設
- ・ 道の駅コスモール大樹（大樹町経済センター）3Fに所在し、SPACE COTANの事務所でもある
- ・ 2024年7月時点で5社が入居し、いつでも宇宙について話せる場所として利用されている

インフォステラ様 通信設備開発

- ・ 2022年3月から着工、アンテナ（直径3m）が完成。インフォステラの地上局サイト開設は初
- ・ 特定の衛星運用者の宇宙ミッションのための専用アンテナのホスティングサービスを提供
- ・ 既に米国の主要な宇宙事業者2社とアンテナを設置運用する契約をしており、近い将来、大樹サイトの追加拡大も検討



HOSPOを用いた様々な実験

Hakobot様 配送ロボ実験

- ・ Hakobotは人口減少に伴う宅配クライシス・ラストワンマイル問題の解決を目指すための自動配送ロボット開発を行うロボットメーカー
- ・ 自動配送ロボットの走行ユニット部分「Hakobase」(ハコベース)の試作機を用いて、雪道や凍結した地面での走行性能テスト、ものづくり現場等の実際の作業環境での走行テストを目的として行われた
- ・ 実際のロケット打上げ時のオペレーションを想定した工具等の配送テストを行った



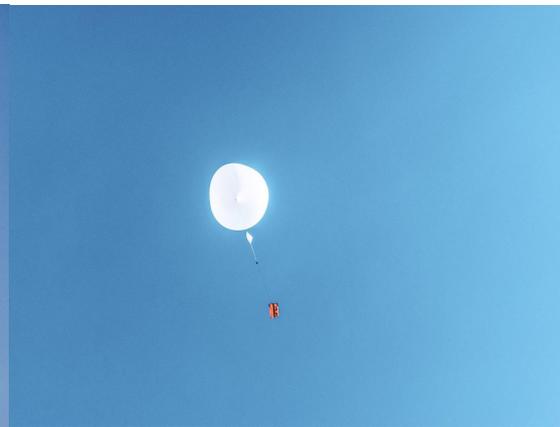
ソフトバンク様 HAPS実験

- ・ 通信エリアを固定させる技術^(※)を搭載した高高度係留気球基地局(HAPS)について、広域で安定した通信エリアの実現に成功
(※フットプリント固定技術・・・機体の旋回にあわせて電波の向きを変えることで、機体に搭載した通信機器からの電波により地上に形成される各セルの通信エリア(フットプリント)を固定させる技術)
- ・ 風速や風向に応じて係留気球基地局の姿勢や位置が変動する場合でも、携帯端末の接続先が勝手に切り替わらず、受信レベルの変動も抑えられ、安定した通信が確認できた



岩谷技研様 気球実験

- ・ これまで宇宙旅行用のプラスチック気球と気密キャビンを自社で開発し、淡水魚(ベタ)の成層圏打ち上げと帰還(2018年6月)、無人気密キャビン及び自社製プラスチック気球の成層圏打ち上げと回収(2021年5月)、低高度有人係留飛行試験(2022年2月)、25m級大型気球の打上げ(2022年3月)などの実証試験に成功
- ・ 今回は内製無線基板の長距離通信可否を検証するために、生分解性カプセルとゾンデ気球(どちらも微生物により自然に還る材質)を用いた放球実験



北海道宇宙サミット

北海道発の宇宙ビジネスカンファレンス

SPACE COTANが主催する、宇宙ビジネスの現状と北海道で進展する宇宙関連産業の集積を体感できるイベント。2021年から毎年開催しており、北海道スペースポート見学ツアーと宇宙ビジネスカンファレンスの2部構成。「一次産業×衛星ビックデータ」「地方創生・まちづくり」「投資」「ものづくり」「宇宙×エンターテインメント」等、宇宙ビジネスを紐解く幅広いテーマのトークセッションを設ける。

2024.10.10 [THU]

北海道が切り拓く。
Hokkaido pioneers the new frontier.

HOKKAIDO SPACE SUMMIT 2024
北海道宇宙サミット2024

北海道が、切り拓く。

まもなく完成するロケットの射場。積み重ねてきた挑戦は、宇宙へ向かうためのステージとなった。ここにあるのは、世界に誇れる土地と環境。高い晴天率に、東と南を望む打上げ軌道。圧倒的な条件が揃ったこの場所に、いま、国の期待が注がれている。日本をリードする土壌が揃った。この宇宙のまちは、世界が目指す宇宙都市へと必ず発展する。

北海道だから、世界と肩を並べられる。北海道から、この国の未来を拓いていく。さあ、誰も見たことのない道へ。日本を、世界を牽引し、北海道が、その先の道を切り拓く。

宇宙と
会おう

HOKKAIDO
SPACE
SUMMIT 2024

東京海上日動

北海道宇宙サミットの参加者数・経済効果（2023）

3回目となる2023年は、宇宙産業への参入を検討している企業等を含め現地に合計1,100名が来場
 現地・オンラインで合計3,300名と国内地方の宇宙イベントでは最大級の盛り上がりとなった

現地参加者数

1,100名

（2022年は700名）

*十勝アグリ&フードサミットも含む

合計参加者数
 （現地・オンライン含む）

3,300名

（2022年は4,700名）

経済効果

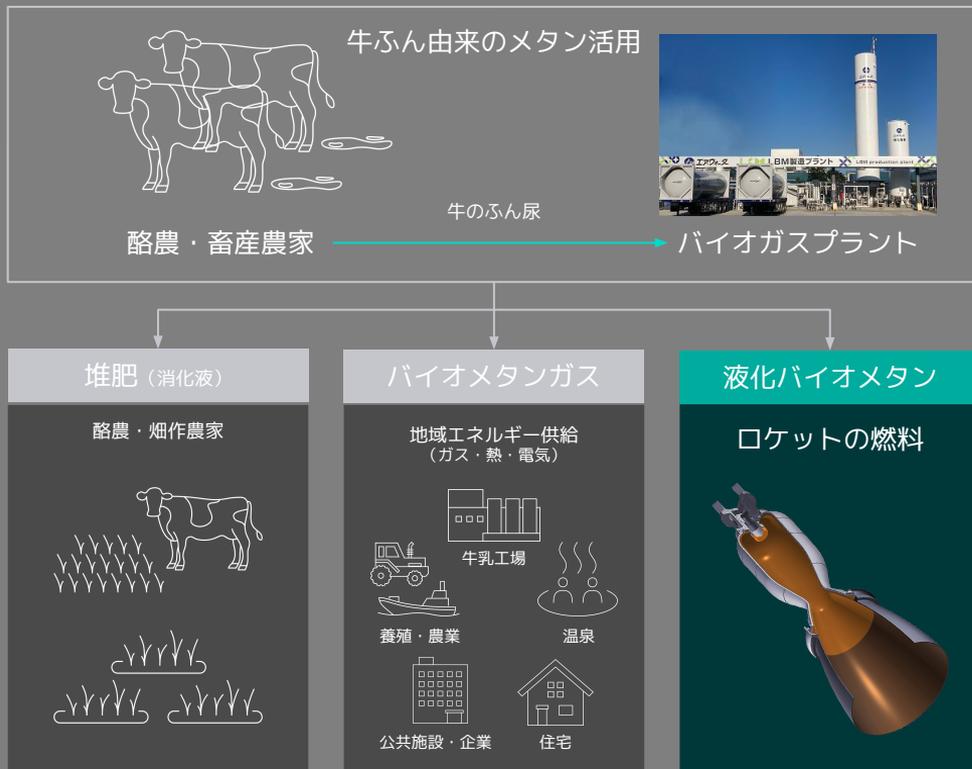
1.06億円

*北海道宇宙サミット実行委員会 独自試算



HOSPOから生まれたサステナブルシーン

「液化バイオメタン」によるカーボンニュートラルへの貢献



液化バイオメタンの社会的メリット

<p>環境の改善 酪農家周辺の環境改善、臭気軽減、地下水・河川への負担軽減</p>	<p>循環型社会の形成 バイオマス資源を活用したエネルギーの地産地消</p>
<p>農業生産力の向上 堆肥仕様による農産物の品質向上、ふん尿処理の労働時間・コスト削減</p>	<p>経済活性化の推進 バイオガスを活用した新産業の創出や産業活性化</p>
<p>地球温暖化の防止 バイオガス発電によるCO2削減に寄与。牛由来のメタン活用によるカーボンニュートラル貢献</p>	<p>持続可能な宇宙開発 液化バイオメタンをロケット燃料に活用、持続可能なエネルギー供給</p>



HOSPOから生まれた連携事業①

北海道スペースポートツアー



北海道オプションツアーも掲載者 日帰りバスツアーは「ほっとバス」

ALHOT BUS ほっとバス

ご希望のツアー名をお電話又はWebから申込みください。

Language ▾

予約電話 011-212-1170

受付 9:30-17:30 土日祝日休業



コース紹介



ツアー特徴・ご予約の流れ



会社概要



お問い合わせ



HOME | 民間の宇宙開発を学ぶ！北海道スペースポートツアー

お申し込み希望のプログラムを選択してください



HOSPOから生まれた連携事業②

ドリンク購入でHOSPOを応援！


宇宙でんき

HOSPO
HOKKAIDO SPACEPORT

 ともに輝く明日のために。
Light up your future.


HOSPO
HOKKAIDO SPACEPORT


売上金の一部がHOSPOの
整備費用として寄付されます

※設置にご協力いただける企業様は
大樹町役場 航空宇宙推進室までご連絡ください。
(TEL01558-6-2113)

【協力】

サントリービバレッジソリューション（株）
北海道コカ・コーラボトリング（株）



北海道電力と北海道スペースポートが協力して作った
地域貢献型の新たな電力サービスです。

HOSPOから生まれたエンターテイメント

Youtuber エンタメ実験

- 登録者600万人を超えるYoutuber「すしーめん《りく》」氏が利用
- 「【飛行場を貸切!!!】タイヤにスチールウール付けて走ったら流れ星になれるんじゃないか?」という宇宙×エンタメをテーマに実験



ファミリー向け航空フェア

- 小型飛行機のパイロットによるNPO法人「AOPA-JAPAN」（日本オーナーパイロット協会）が主催し、日本全国から小型飛行機11機が集まった
- 家族連れを中心に北海道内外から1,000人が来場。飛行機展示のほか、搭乗体験、スカイダイビングのデモンストレーション、飛行機と子供達の綱引き対決等が行われ、来場者に、普段なかなか近くで見られない飛行機との触れ合いを楽しんで頂いた



民間ロケット開発をテーマとした漫画

- 北海道大樹町を舞台に、民間ベンチャーが開発するロケットを宇宙に到達させるまでの波乱万丈な物語を描く挫折と挑戦の群像劇『晴天のデルタプイ』。
- 宇宙産業やロケット開発事業の理解や認知を広げ、日本の宇宙産業を盛り上げようと2022年3月にPJ発足。原作者に『左きき のエレン』等の著者として知られるかっぴー氏を迎え、SPACE COTANと北海道大樹町が協力し、同町でロケット開発を行う民間ロケットベンチャー インターステラテクノロジズの監修のもと制作



出典：Youtuber「すしーめん《りく》」チャンネル、
かっぴー/フウワイかもとも/ししゃも/スタジオアツツー/INCLUSIVE/ナンバーナイン

HOSPO

HOKKAIDO SPACEPORT